

## 令和4年度第1回大府市行財政改革委員会要点記録

日時：令和4年10月24日（月）

午後2時～3時30分

場所：203・204会議室

### 委員

委員長 三浦 哲司  
副委員長 坂口 美穂  
委員 東村 博子  
委員 田中 剛  
委員 古市 晃久  
委員 丸山 冬芽（欠席）

### 大府市

市長 岡村 秀人  
副市長 山内 健次  
企画政策部長 新美 光良  
法務財政課長 平野 陽介  
法務財政課 財政係長 橋本 有司  
文化交流課長 田中 雅史  
文化交流課 多文化交流係長 小林 木綿  
福祉部長 猪飼 健祐  
高齢障がい支援課長 小島 紳也  
高齢障がい支援課 高齢福祉係長 佐野 隆造  
幼児教育保育課長 山本 貴之  
幼児教育保育課 保育係長 阪野 圭亮

### （事務局）

企画広報課長 太田 雅之

企画広報課 企画政策係長 鈴木 康幸  
企画広報課 企画政策係主事 鷺津 和希  
企画広報課 企画政策係主事 青木 大

## 1 市長あいさつ

## 2 委員長あいさつ

## 3 議題

### 事務事業の外部評価

#### (1) 外国にルーツを持つ子どものプレスクール（文化交流課）

（委員）

支援を必要としている園児の取りこぼしはないか。

（文化交流課）

本年度はモデル事業として、2園の対象者に案内を行った。市全体としては、公立・私立保育園ともに対象園児の人数を把握している。令和4年9月時点で公立・私立に偏りはなく、あわせて約40名（年少児及び年中児）である。対象園児の国籍別では、ベトナム国籍の園児が最も多い。また、園児によって、日本語の理解度は様々である。なお、認可外保育施設の子どもたちについては、人数を把握できていない。

（委員）

認可外保育施設の子どもたちについて、対象人数を把握できていないことは課題であると思う。講師については、処遇を改善するとともに、2言語、少なくとも英語を対応できる方を募集してはどうか。また、プレスクールに参加する園児が差別感を感じないようなプログラムを開発すると良いと思う。

（委員）

本年度前期の成果はどうであったか。

(文化交流課)

講師からの聞き取りでは、日常生活には支障がないが日本語をしっかりと覚えられていない園児が、歌や遊戯を通して体の部位の名前を覚えることができたと確認している。

(委員)

大府で安心して生活を送れるよう、今後取り組む上で何か指標化できると良い。

(委員)

指導にAI自動翻訳ロボットなどITを活用してはどうか。ITについては、子どもたちの方が進んでいる場合もある。

(委員)

保育園に通っていない子どもたちの対応も課題ではないか。

(文化交流課)

親と子どもをセットで考え、日本語教室などと連携し、対応していきたいと考えている。

(委員長)

委員会として、引き続き力を入れて本事業を進めることに異論はない。今後は、認可外保育施設の子どもたちや保育園に通っていない子どもたちの状況を把握してほしい。また、AIなどの新しい技術を活用し事業を進め、多文化理解を促す工夫をしてほしい。

## (2) 敬老会の在り方（高齢障がい支援課）

(委員)

費用対効果をどう分析・評価しているか。

(高齢障がい支援課)

参加した方からは、会でのアトラクションを毎回楽しみにしているという良い声をいただいている。一方で、対象者約16,000人に対する参加者数が少ないことを課題と感じている。

(委員)

参加者が少ないということは、今の時代とあっていないのではないか。自発的に参加してもらえるよう検討いただきたい。

(委員)

参加率の低さが気になる。高齢者にとって、どこかに集まって開催する方法が合っていないのではないか。表彰は喜ばしいことであるので、賞を増やしてはどうか。高齢者それぞれが市から大切にされていると感じるきっかけになると思う。

(委員)

記念品の配布については、節目の年のみに限定してはどうか。

(委員)

「敬老」という言葉がふさわしくない可能性がある。大府らしいネーミングで、例えば「健康長寿会」はどうか。また、オンライン参加も可能とする、ハイブリッド開催を検討してはどうか。

(委員)

市の他のイベントである成人式などと比べた参加率の状況はどうであるか。また、敬老会への新規参加者数を把握しているか。

(高齢障がい支援課)

新規参加者数の把握はできていない。毎年に参加くださる方及び記念品のみの受け取りの方は固定化されている印象がある。

(委員長)

全体として、敬老会の在り方を見直す必要があると思う。現在、敬老会の参加者が限られてきており、今後は色々な角度から検討し、高齢者の生きがいにつながる事業となることを期待する。

### (3) 保育所運営におけるこれまでの取組と今後の取組について（幼児教育保育課）

(委員)

公立保育所と私立保育所の特徴の違いを教えてください。

(幼児教育保育課)

私立保育所は、例えば英語教育など社会ニーズを早く取り入れ、独自性や多様性に富んだ保育サービスを提供している。

(委員)

中長期的に見て、人口増加が落ち着いた時、保育施設の統廃合を検討しているか。

(幼児教育保育課)

0～5歳の子どもの人口は減少傾向にあるが、保育所等への入所率は上がっている。今後は、マンション建設や区画整理がある地域及び全体の保育需要を考慮した上、民間事業者の動向を見ながら対応していく。

(委員長)

大府市では、国基準の床面積より広く設定しているなど市独自基準で行っていることはあるか。

(幼児教育保育課)

床面積については特にはないが、本市の公立保育園では1歳児の保育士の配置基準について、国基準である子ども6人に対し保育士1人の配置ではなく、市独自の基準を設け、子ども5人に対し保育士1人の配置を行っている。

(委員)

認可外保育施設の入所状況は把握しているか。

(幼児教育保育課)

令和3年度、認可外保育施設には約150人の子どもたちが入所している。また、市として、認可外保育施設の認可化移行支援を進めている。

(委員)

大府市では、2人目の子どもの出産による育児休業中の場合、1人目の子どもが継続して通園できるか。

(幼児教育保育課)

既に入所している子どもが1歳児以上の場合、育休期間中も継続入所が

可能である。新規入所は対応していない。

(委員)

横根・共長保育園は、閉園後どうなるのか。

(幼児教育保育課)

横根保育園については賃借している用地を返却し、共長保育園については隣接する共長児童センターの広場として活用していく予定である。

(委員長)

全体として、今後も保育所に対するニーズへの対応とともに、大府市のセールスポイントである健康などを生かしながら保育の質の維持や向上に努め、園児、保護者が利用しやすい保育所運営をしてほしい。

#### 4 その他

特になし

終了